

格付け区分の概要と参考例

格付け区分の形式的な概要

格付け区分は、“正常先”に入ることが絶対条件！

銀行は、自己査定後の貸借対照表と自己査定後の損益計算書から経営分析を行い、算出された経営指標の数値を点数化して、あなたの会社を格付けしていきます。

格付けは、決算書（定量要因）だけでなく、経営者の資質や経営姿勢などの定性要因も加算・減算されますが、ここでは形式的な概要で説明します。

融資先の格付け区分は、融資先の財務状況や資金繰り、収益力などにより融資の返済能力を判定し、その状況等によって融資先を、＜A.正常先＞、＜B.要注意先＞、＜C.破綻懸念先＞、＜D.実質破綻先＞及び＜E.破綻先＞の5区分に分類されます。

そして要注意先は、さらに＜B.要管理先以外の要注意先＞と＜B 要管理先＞に分けられます。

		貸倒引当率（ ）	貸倒引当金の計上基準	融 資 対 象 外
A . 正常先		0.1% ~ 0.5%	過去の貸倒実績率に基づき、今後1年間の予想損失額を見積り、計上。	
要 注 意 先	B . 要管理先以外の 要注意先	2% ~ 10%	過去の貸倒実績率に基づき、平均残存期間または今後1年間の予想損失額を見積り、計上。	
	B 要管理先	15% ~ 40%	過去の貸倒実績率に基づき、平均残存期間または今後3年間の予想損失額を見積り、計上。	
C . 破綻懸念先		60% ~ 90%	過去の貸倒実績率に基づき、個別債務者ごとに今後3年間の予想損失額を見積り、個別貸倒引当金として計上。	
D . 実質破綻先		全額償却 または100%	個別債務者ごとに債権額全額を 予想損失額とし、個別貸倒引当 金として計上するか直接償却。	
E . 破綻先		全額償却 または100%		

ホームページで公表されている地方銀行や信用金庫の数値を参考にした率です。

格付け区分が、＜ B 要管理先＞以下になると融資が打ち切りになるのが一般的です。＜ B 要管理先＞以下に格付け区分された会社に融資ができない理由は、融資の完済の可能性が低いことと、銀行が決算書に計上しなければならない貸倒引当率の高さにあります。

B I S 規制により、＜ B 要管理先＞以下の融資先に対する貸倒引当金は、銀行自身の自己資本比率を悪化させることになるからです。

このため、あなたの会社が要注意先の＜ B .要管理先＞以外の要注意先の格付け区分にある場合は、翌期の決算で＜ A .正常先＞に格付け区分されるように決算書を作成することが最重要課題になります。

また＜ A .正常先＞の中は、さらに5～7ランクに分類され、＜ A .正常先＞の格付け区分であるからと安心することなく、さらなる上のランクにしていくことで、

希望通りに、かつ早く追加融資を受けることができる。

無担保・無保証で融資を受けることができたり、信用保証協会などの保証を必要としないプロパー融資（ ）を低い金利で受けることができる。

プロパー融資とは、銀行が独自に行う融資で、信用保証協会などの保証を必要としない融資

など、銀行との取引を優位に進めることができます。

融資先が＜ B 要管理先＞以下の格付け区分の場合、どんなに立派な事業計画書を提出しても、銀行の融資先に対する貸倒引当率の高さを見て頂ければ、融資対象外になることをご理解頂けるでしょう。

融資額に対して、銀行の決算書に15%を超える貸倒引当金を設定しなければならず、消費者金融以上の金利でなければ銀行経営が成り立たないからです。

格付け区分の形式的な参考例（返済の延滞がない場合）

“ 正常先 ” の条件は、自己資本がプラス&欠損金なしで黒字の会社！

格付け区分が、＜ A .正常先＞になるための形式的な条件は、下記の3つになります。

自己査定後の貸借対照表の「自己資本額（純資産の部合計）」がプラスであること
自己資本額がマイナスの場合を「債務超過」といいます。

この金額がプラスになっていることが必要です。

自己査定後の貸借対照表の「繰越利益剰余金」がプラスであること

繰越利益剰余金がマイナスの場合は、繰越欠損金の表示になります。

この金額がプラスになっていることが必要です。

なお、自己資本額がプラスで、繰越利益剰余金がマイナスの状態を「資本割れ」といいます。

自己査定後の損益計算書の「経常利益」が黒字（プラス）であること

経常利益は、銀行の借入利息を支払った後の利益金額を示します。そのため経常利益が黒字（プラス）であることは、借入利息を継続して支払うことができることを意味します。

なお、経常利益が黒字（プラス）で、当期純利益が赤字（マイナス）の場合は、赤字の原因が固定資産の売却損などの一過性のものであり、短期間に黒字化することが見込まれば、
< A . 正常先 > として判断しても良いことになっています。

貸借対照表		損益計算書	格付け区分
債務超過なし	繰越欠損金なし	黒字	A . 正常先（5～7ランクあり）
債務超過なし	繰越欠損金あり	黒字	B . 要管理先以外の要注意先
債務超過なし	繰越欠損金なし	赤字	B . 要管理先以外の要注意先
債務超過なし	繰越欠損金あり	赤字	B . 要管理先以外の要注意先
債務超過		赤字	B 要管理先

プロパー融資の重要性

格付け区分が< A . 正常先 > であっても、この< A . 正常先 > の中が各銀行5～7ランクあり、どのランクにいるのかによって借入金の金利も変化してきます。このため、毎期の決算でさらなるランクアップをしていくことで、金利を下げる事が可能になります。

そして中小企業の場合、プロパー融資にしていくことが最大の課題になります。このプロパー融資とは、信用保証協会の保証などを必要としない融資のことをいいます。

通常、信用保証付き融資で銀行との実績を重ねながら、プロパー融資の対象になっていく流れですが、最近では地方銀行や信用金庫が直接プロパー融資をする動きも出てきました。そのため、格付け区分を< A . 正常先 > にすることで、金利の低いプロパー融資を直接利用することもできます。

なお、ビジネス・ローンもプロパー融資の一種ですが、ここで言うプロパー融資はビジネス・ローンとは違います。